

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	起業学(Theory of Entrepreneurship)		授業コード	A028351
担当教員名	工藤 順一、橋本 堅次郎、吉本 圭一郎、泉 丙完		科目ナンバリングコード	A20206
配当学年	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	あなた自身が起業するつもりで講義に臨んでください。			
受講心得	1、授業中の私語、携帯使用は禁止、また教室では脱帽。 2、必ず自筆のノートを作成すること			
教科書	ベンチャー企業論(柳 孝一、長谷川博和著)放送大学教育振興会発行			
参考文献及び指定図書	「ベンチャー創造の理論と戦略」(ジェフリー・A・ティモンズ)ダイヤモンド社 「資本主義のための革新」小室直樹書著 日経BP社			
関連科目	経営学入門、マーケティング論、ブランド学、広告論			

授業の目的	今、起業ないし起業支援が各方面から注目されている。日本経済を活性化するためには、自ら新しい商品(技術・サービス)を開発し、新しい市場の開拓に挑戦する「ベンチャービジネス」を始めとする独創的な新しい企業の出現が大きく期待されている。本講座ではベンチャーを起こす意味や社会背景について理解すると共に、学生によるベンチャー起業家を育成するために、豊かな発想力や行動力をどのように養成したらよいのか、さらには資金面やマネジメントの問題をどう解決すればよいのかなどについて学ぶ。独立して企業を立ち上げることは夢かもしれない。しかし事業を成功に導いた人々には、さまざまな成功則が存在している。本講座ではこれら様々な成功則にのっとりチームまたは個人で起業の準備、ビジネスモデル作成、事業計画などの起業プランを作成し、その立案結果を発表・プレゼンテーションするなど実践を通じて起業のやり方について理解を深める。
授業の概要	4人の先生が交代で授業を行います。先生によって授業の進め方や課題は異なりますが「将来、起業のできる人材を育成する」という目標は同じです。起業者のつもりで授業に臨んでください。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：なぜ「起業学」を学ぶのか 最近「起業支援・創業支援」という言葉をよく聞くようになりました。そこで、起業とは何か？なぜ起業するのか？そして、なぜ大学で起業学を学ぶのかについて考えてみましょう。この疑問を考えるに当たり、逆に起業(革新)がなかったならば、これからの世の中はどうかを想像するとわかりやすいと思います。少し難しく言うと、革新のない資本主義ということになります。最初の講義は、その辺から入りたいと思います。	各回、資料を配布し、復習に使用できるようにする。
第2週：起業マインドの作り方 起業するといってもいきなり起業できるわけではありません。起業するには起業家の心構えが必要です。そこで、2回目は、起業に必要な起業マインドについて学習します。起業マインドを育成するには、どうしたらよいのか？日頃からどんな準備をしていたらよいかをフィンランドの教育を見ながら考えてみます。	各回、資料を配布し、復習に使用できるようにする。
第3週：起業における資金調達の方法 起業する気はあるのですが、資金が足りません。そんなとき、無料で相談に乗ってくれる人がいることを皆さんは知っていますか？お金を補助金としてくれることを知っていますか？今回は、皆さんが起業するときに、温かく応援してくれる支援機関を紹介し、起業者の資金調達の方法について学びます。	各回、資料を配布し、復習に使用できるようにする。
第4週：事業計画の作成	

<p>何事をするにも計画が必要です。今回は、起業のための事業計画の作成をします。計画を作るのはそんなに難しくはありません。フォーマットは決まっていますので、空欄を埋めることである程度計画が出来上がります。今回は事業計画と一緒に作成しながら、できればプレゼンの仕方も学習しましょう。</p>	<p>各回、資料を配布し、復習に使用できるようにする。</p>						
<p>第5週：創業と守成（企業の事例研究）</p> <p>「創業は易く、守成は難し」という言葉があるように、創業は決して易しいものではないのですが、創業した事業を守り育成してことは創業よりも難しいものです。企業の事例を説明しながら創業と守成について学生と一緒に考える授業です。</p>	<p>各回、資料を配布し、復習に使用できるようにする。</p>						
<p>第6週：創業と守成、承継</p> <p>事業を育て上げた後に待っているのはその事業を次の世代に引き継ぐことです。事業の承継がうまく行かない事例がマスコミを騒がすように、事業承継は大変に難しいものです。実際の承継事例を検討しながら承継について学生と一緒に考えます。</p>	<p>各回、資料を配布し、復習に使用できるようにする。</p>						
<p>第7週：さまざまな起業家達</p> <p>起業というとITを中心にした起業を思い浮かべますが実は社会起業家など起業の種類は大変に幅広いものです。また起業する年齢も実はシニア起業家と言われるように中高年の起業の比率は高いものになっています。起業という言葉ではかたづけられない世界を事例をあげながら一緒に考えていきます。</p>	<p>各回、資料を配布し、復習に使用できるようにする。</p>						
<p>第8週：eビジネス起業演習(1)</p> <p>近年、起業に成功したeビジネスの事例を通して、これらのeビジネスの成功要因、社会に与えた影響や技術動向を学ぶ。本演習では、企業に成功したeビジネスを基に、次の時代の新たなeビジネスを提案する。</p>	<p>各回、資料を配布し、本演習において使用する。</p>						
<p>第9週：eビジネス起業演習(2)</p> <p>新たなeビジネスのアイデアをライトストーミング手法により各自が提案する。</p>	<p>各回、資料を配布し、本演習において使用する。</p>						
<p>第10週：eビジネス起業演習(3)</p> <p>eビジネスの具体化、ブラッシュアップを行う。特に、既存ビジネスとの差別点、技術的優位性や経済的妥当性等において、アピールポイントをまとめ、プレゼンの準備を行う。</p>	<p>各回、資料を配布し、本演習において使用する。</p>						
<p>第11週：eビジネス起業演習(4)</p> <p>各自によるプレゼン発表や、講師の学生時代に立ち上げたeビジネス経験に関する紹介等を行う。</p>	<p>各回、資料を配布し、本演習において使用する。</p>						
<p>第12週：個人事業と株式会社(1)</p> <p>ここでは、実際に起業するまえの準備事項等について具体的に学ぶ。はじめに独立開業のメリット、デメリットを確認し、そのあと実際に事業計画や資金計画の立て方などについて説明を行う。</p>	<p>各回、資料を配布し、復習に使用できるようにする。</p>						
<p>第13週：個人事業と株式会社(2)</p> <p>ここでは個人事業の意義やその仕組み等について学ぶ。そして個人事業の所得計算の仕組みや計算方法等についても学んでいく。</p>	<p>各回、資料を配布し、復習に使用できるようにする。</p>						
<p>第14週：個人事業と株式会社(3)</p> <p>ここでは会社形態、特に株式会社の形態やその仕組み等について学ぶ。そして株式会社の所得計算の仕組みや計算方法等についても学んでいく。</p>	<p>各回、資料を配布し、復習に使用できるようにする。</p>						
<p>第15週：個人事業と株式会社(4)</p> <p>個人事業と株式会社の比較を経営面と税金面で行い、それぞれの特徴を学ぶ。またここでは設例を用いて実際に税金計算を行い、より実践的に学んでいく。</p>	<p>各回、資料を配布し、復習に使用できるようにする。</p>						
<p>第16週：期末試験</p> <p>講義の要点を理解できているかを確認します。配布資料だけでなく、講義で黒板に書いた内容からも出題しますので、ノートはしっかりとってください。</p>							
<p>授業の運営方法</p>	<table border="1"> <tr> <td>(1)授業の形式</td> <td>「講義形式」</td> </tr> <tr> <td>(2)複数担当の場合の方式</td> <td>「オムニバス方式」</td> </tr> <tr> <td>(3)アクティブ・ラーニング</td> <td></td> </tr> </table>	(1)授業の形式	「講義形式」	(2)複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」	(3)アクティブ・ラーニング	
(1)授業の形式	「講義形式」						
(2)複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」						
(3)アクティブ・ラーニング							
<p>地域志向科目</p>	<p>カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目</p>						

備考	
----	--

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	起業への関心を高め、起業についての意欲を持つ。また外部のベンチャービジネスコンテストなどへ挑戦するきっかけとする。
【知識・理解】	起業の歴史、実際のベンチャー企業への理解を深め、起業に関わる会計などの周辺知識を習得する。
【技能・表現・コミュニケーション】	レポートや試験の記述を通して、論理的な表現能力を高める。
【思考・判断・創造】	起業についての幅広い思考能力を高め、また起業への創造力、判断力を高める。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	10点			
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	50点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点			
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	30点			
(「人間力」について)				
※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	授業によっては、レポートを提出していただきます。レポートは、テーマに沿って、自分の言葉で書いてください。インターネットの文章をそのまま載せるのはやめましょう。量と質の両面から評価します。
発表・その他 (無形成果)	授業の中で適宜質問します。質問に対する解答については、成績評価において加点することがあります。